

## 【論点に関する参考資料】

1	目的(必要性).....	1
2	目標・内容.....	1
3	指導と評価.....	19
4	指導体制.....	38

- 1 目的(必要性)
- 2 目標・内容

## グローバル人材について

グローバル人材については、「第二期教育振興基本計画」(平成25年6月14日閣議決定)において、日本人としてのアイデンティティや日本の文化に対する深い理解を前提として、

①豊かな語学力・コミュニケーション能力、

②主体性・積極性、

③異文化理解の精神等を身に付けて様々な分野で活躍できるグローバル人材の育成が重要との基本的考え方が示されている。

## 言語別 使用国数・使用人数 データ

Rank	Language	Primary Country	Total (Countries)	Speakers (Millions)
1	Chinese (中国語)	China	33	1,197
2	Spanish (スペイン語)	Spain	31	414
3	English (英語)	United Kingdom	99	335
4	Hindi (ヒンディー語)	India	4	260
5	Arabic (アラビア語)	Saudi Arabia	60	237
6	Portuguese (ポルトガル語)	Portugal	12	203
7	Bengali (ベンガル語)	Bangladesh	4	193
8	Russian (ロシア語)	Russian Federation	16	167
9	Japanese (日本語)	Japan	3	122
10	Javanese (ジャワ語)	Indonesia	3	84
11	Lahnda (ラフンダー語)	Pakistan	6	83
12	German, Standard (ドイツ語)	Germany	18	78
13	Korean (韓国語)	South Korea	5	77
14	French (フランス語)	France	51	75
15	Telugu (テルグ語)	India	2	74
16	Marathi (マラーティー語)	India	1	72
17	Turkish (トルコ語)	Turkey	8	71
18	Tamil (タミル語)	India	6	69
19	Vietnamese (ベトナム語)	Viet Nam	3	68
20	Urdu (ウルドゥー語)	Pakistan	6	64
21	Italian (イタリア語)	Italy	10	64
22	Malay (マレー語)	Malaysia	13	60
23	Persian (ペルシア語)	Iran	29	57

※出典: Ethnologue (<http://www.ethnologue.com/statistics/size>)

# 諸外国における外国語教育の状況

	中国	韓国	台湾	日本
初等教育段階における外国語教育の導入時期	2001年 (平成13年)	1997年 (平成9年)	2001年 (平成13年)	2011年 (平成23年)
外国語教育の開始学年	小学校 第3学年	小学校 第3学年	○2001年 小学校第5学年 ○2005年 小学校第3学年	小学校 第5学年
小学校における外国語教育の授業時数	週4回以上 ・3・4年は短時間(30分)がメイン ・5・6年は短時間授業と長時間授業(40分)の混合、長時間授業は週2回以上	○2008年改定 ・3～4年は週2コマ ・5～6年は週3コマ ※1コマ40分、年間34週 ○改定前(2007年以前)は ・3～4年は週1コマ ・5～6年は週2コマ	週2コマ ※1コマ40分	週1コマ ※1コマ45分、年間35週
小・中・高一貫した外国語教育の目標設定	・小学校卒業時の目標として、言語技能・言語知識・感情態度・学習戦略・文化意識の5項目の到達基準「二級」(英語に興味を保持して継続して学習する等)を設定 (学年ごとの目標は定めず)	・小学校段階から教育目標を設定 ・日常生活で使う基礎的な英語を理解し表現する能力を育てる 等	・小学校段階から、言語能力・英語学習に対する興味と学習方法・文化と風習の理解に関する到達目標を定める	

# 指導する語数の日中韓比較

## <日本>

日本	語彙数	新語数
高校3年生	3,000語	+700語
高校2年生	2,300語	+700語
高校1年生	1,600語	+400語
中学校卒業レベル	1,200語	+1,200語
小学校卒業レベル	(約285語)	(約285語)

- 実質的な単位数の算定には、普通科における典型的履修パターンを想定。
- 小学校卒業レベルの語数は「英語ノート」の語数を基に記載。

## <韓国>

韓国(改訂後)	語彙数	新語数
高校卒業レベル	2,800語	+1,710語
中学校卒業レベル	1,290語	+790語
小学校卒業レベル	500語	+500語

- 高校では必履修英語(8)及び選択の英語Ⅰ(6)並びに英語Ⅱ(6)を履修することを想定。
- 深化英語読解及び作文(6)を履修した場合は3,000語。 出典:初・中等学校教育課程

## <中国>

中国	語彙数	新語数
高校卒業レベル	3,000語	+1,400~1,500語
中学校卒業レベル	1,500~1,600語	+800~1,000語
小学校卒業レベル	600~700語	+600~700語

出典:全日制義務教育英語課程標準(実験稿)

## (参考)学習指導要領に規定された指導する語数の変遷

改訂年	中学校	高等学校	合計
		高等学校計	
昭和45年	950語~1,100語	2,400語~3,600語	3,350語~4,700語
昭和52年	900語~1,050語	1,400語~1,900語	2,300語~2,950語
平成元年	1,000語	1,400語	2,400語
平成10年	900語	1,300語	2,200語
今回改訂	1,200語	1,800語	3,000語

# 外国語教育の現状

## 基本的な考え方

○小中高を通じて、コミュニケーション能力を育成。

- 言語や文化に対する理解を深める
- 積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する
- 「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能をバランスよく育成する

○指導語彙を充実(中高を通じて、2,200語から3,000語に)

## 【小学校】

○外国語活動(活動型)

○対象:5,6年生

○指導体制:学級担任が中心(ALTとのTT等)

○週1コマ(年間35コマ)

○記述文による評価

## 【中学校】

○外国語科(教科型)

○指導体制:教科担任制(専科教員)

○週4コマ(年間140コマ)

○語彙数:1,200語

○数値による評価

## 【高等学校】

○外国語科(教科型)

○指導体制:教科担任制(専科教員)

○必修科目:コミュニケーション英語Ⅰ(3単位)

その他、コミュニケーション英語Ⅱ・Ⅲ、英語表現Ⅰ・Ⅱ、英会話等から選択

○語彙数:3,000語※(コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを履修した場合)※中学校で履修する1,200語を含む。

○数値による評価

# 小学校外国語活動の目標及び内容

## 小学校学習指導要領(平成20年3月告示)(抄)

### 第4章 外国語活動

#### 第1 目標

外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。

#### 第2 内容

外国語を用いて積極的にコミュニケーションを図ることができるよう、次の事項について指導する。

- (1) 外国語を用いてコミュニケーションを図る楽しさを体験すること。
- (2) 積極的に外国語を聞いたり、話したりすること。
- (3) 言語を用いてコミュニケーションを図ることの大切さを知ること。

日本と外国の言語や文化について、体験的に理解を深めることができるよう、次の事項について指導する。

- (1) 外国語の音声やリズムなどに慣れ親しむとともに、日本語との違いを知り、言葉の面白さや豊かさに気付くこと。
- (2) 日本と外国との生活、習慣、行事などの違いを知り、多様なものの見方や考え方があることに気付くこと。
- (3) 異なる文化をもつ人々との交流等を体験し、文化等に対する理解を深めること。

# 中学校外国語科の目標及び内容

## 中学校学習指導要領(平成20年3月告示)(抄)

### 第2章 各教科 第9節 外国語

#### 1 目標

外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。

#### 2 各言語の目標及び内容等 英語

##### 1 目標

- (1) 初歩的な英語を聞いて話し手の意向などを理解できるようにする。
- (2) 初歩的な英語を用いて自分の考えなどを話すことができるようにする。
- (3) 英語を読むことに慣れ親しみ、初歩的な英語を読んで書き手の意向などを理解できるようにする。
- (4) 英語で書くことに慣れ親しみ、初歩的な英語を用いて自分の考えなどを書くことができるようにする。

#### 第2 内容

##### (1) 言語活動

英語を理解し、英語で表現できる実践的な運用能力を養うため、次の言語活動を3学年間を通して行わせる。

##### ア 聞くこと

主として次の事項について指導する。

- (ア) 強勢、イントネーション、区切りなど基本的な英語の音声の特徴をとらえ、正しく聞き取ること。
- (イ) 自然な口調で話されたり読まれたりする英語を聞いて、情報を正確に聞き取ること。
- (ウ) 質問や依頼などを聞いて適切に応じること。
- (エ) 話し手に聞き返すなどして内容を確認しながら理解すること。
- (オ) まとまりのある英語を聞いて、概要や要点を適切に聞き取ること。

##### イ 話すこと

主として次の事項について指導する。

- (ア) 強勢、イントネーション、区切りなど基本的な英語の音声の特徴をとらえ、正しく発音すること。
- (イ) 自分の考えや気持ち、事実などを聞き手に正しく伝えること。
- (ウ) 聞いたり読んだりしたことなどについて、問答したり意見を述べ合ったりなどすること。
- (エ) つなぎ言葉を用いるなどのいろいろな工夫をして話を続けること。
- (オ) 与えられたテーマについて簡単なスピーチをすること。

## ウ 読むこと

主として次の事項について指導する。

- (ア) 文字や符号を識別し、正しく読むこと。
- (イ) 書かれた内容を考えながら黙読したり、その内容が表現されるように音読すること。
- (ウ) 物語のあらすじや説明文の大切な部分などを正確に読み取ること。
- (エ) 伝言や手紙などの文章から書き手の意向を理解し、適切に応じること。
- (オ) 話の内容や書き手の意見などに対して感想を述べたり賛否やその理由を示したりなどすることができるよう、書かれた内容や考え方などをとらえること。

## エ 書くこと

主として次の事項について指導する。

- (ア) 文字や符号を識別し、語と語の区切りなどに注意して正しく書くこと。
- (イ) 語と語のつながりなどに注意して正しく文を書くこと。
- (ウ) 聞いたり読んだりしたことについてメモをとったり、感想、賛否やその理由を書いたりなどすること。
- (エ) 身近な場面における出来事や体験したことなどについて、自分の考えや気持ちなどを書くこと。
- (オ) 自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を書くこと。

# 高等学校外国語科の目標及び内容

## 高等学校学習指導要領（平成20年3月告示）（抄）

### 第2章 各学科に共通する各教科 第8節 外国語

#### 第1款 目標

外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う。

#### 第2款 各科目

##### 第1 コミュニケーション英語基礎

###### 1 目標

英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどの基礎的な能力を養う。

###### 2 内容

- (1) 1の目標に基づき、中学校学習指導要領第2章第9節の第2の2の(1)に示す言語活動を参照しつつ、適切な言語活動を英語で行う。
- (2) (1)に示す言語活動を効果的に行うために、それぞれの生徒の中学校における学習内容の定着の程度等を踏まえた上で、中学校学習指導要領第2章第9節の第2の2の(2)のアに示す事項を参照しつつ、適切に指導するよう配慮するものとする。



## 第2 コミュニケーション英語 I

### 1 目標

英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。

### 2 内容

(1) 生徒が情報や考えなどを理解したり伝えたりすることを実践するように具体的な言語の使用場面を設定して、次のような言語活動を英語で行う。

ア 事物に関する紹介や対話などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。

イ 説明や物語などを読んで、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。また、聞き手に伝わるように音読する。

ウ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりする。

エ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、簡潔に書く。

(2) (1)に示す言語活動を効果的に行うために、次のような事項について指導するよう配慮するものとする。

ア リズムやイントネーションなどの英語の音声的な特徴、話す速度、声の大きさなどに注意しながら聞いたり話したりすること。

イ 内容の要点を示す語句や文、つながりを示す語句などに注意しながら読んだり書いたりすること。

ウ 事実と意見などを区別して、理解したり伝えたりすること。

## 第3 コミュニケーション英語 II

### 1 目標

英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を伸ばす。

### 2 内容

(1) 生徒が情報や考えなどを理解したり伝えたりすることを実践するように具体的な言語の使用場面を設定して、次のような言語活動を英語で行う。

ア 事物に関する紹介や報告、対話や討論などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。

イ 説明、評論、物語、随筆などについて、速読したり精読したりするなど目的に応じた読み方をすすめる。また、聞き手に伝わるように音読や暗唱を行う。

ウ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合うなどして結論をまとめる。

エ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、まとまりのある文章を書く。

(2) (1)に示す言語活動を効果的に行うために、次のような事項について指導するよう配慮するものとする。

ア 英語の音声的な特徴や内容の展開などに注意しながら聞いたり話したりすること。

イ 論点や根拠などを明確にするとともに、文章の構成や図表との関連などを考えながら読んだり書いたりすること。

ウ 未知の語の意味を推測したり背景となる知識を活用したりしながら聞いたり読んだりすること。

エ 説明や描写の表現を工夫して相手に効果的に伝わるように話したり書いたりすること。

## 第4 コミュニケーション英語Ⅲ

### 1 目標

英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を更に伸ばし、社会生活において活用できるようにする。

### 2 内容

- (1) 1の目標に基づき、「コミュニケーション英語Ⅱ」の2の(1)に示す言語活動を更に発展させて行う。
- (2) (1)に示す言語活動を行うに当たっては、「コミュニケーション英語Ⅱ」の2の(2)と同様に配慮するものとする。

## 第5 英語表現Ⅰ

### 1 目標

英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。

### 2 内容

- (1) 生徒が情報や考えなどを理解したり伝えたりすることを実践するように具体的な言語の使用場面を設定して、次のような言語活動を英語で行う。
  - ア 与えられた話題について、即興で話す。また、聞き手や目的に応じて簡潔に話す。
  - イ 読み手や目的に応じて、簡潔に書く。
  - ウ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどをまとめ、発表する。
- (2) (1)に示す言語活動を効果的に行うために、次のような事項について指導するよう配慮するものとする。
  - ア リズムやイントネーションなどの英語の音声的な特徴、話す速度、声の大きさなどに注意しながら話すこと。
  - イ 内容の要点を示す語句や文、つながりを示す語句などに注意しながら書くこと。また、書いた内容を読み返すこと。
  - ウ 発表の仕方や発表のために必要な表現などを学習し、実際に活用すること。
  - エ 聞いたり読んだりした内容について、そこに示されている意見を他の意見と比較して共通点や相違点を整理したり、自分の考えをまとめたりすること。

## 第6 英語表現Ⅱ

### 1 目標

英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を伸ばす。

### 2 内容

- (1) 生徒が情報や考えなどを理解したり伝えたりすることを実践するように具体的な言語の使用場面を設定して、次のような言語活動を英語で行う。
  - ア 与えられた条件に合わせて、即興で話す。また、伝えたい内容を整理して論理的に話す。
  - イ 主題を決め、様々な種類の文章を書く。
  - ウ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどをまとめ、発表する。また、発表されたものを聞いて、質問したり意見を述べたりする。
  - エ 多様な考え方ができる話題について、立場を決めて意見をまとめ、相手を説得するために意見を述べ合う。
- (2) (1)に示す言語活動を効果的に行うために、次のような事項について指導するよう配慮するものとする。
  - ア 英語の音声的な特徴や内容の展開などに注意しながら話すこと。
  - イ 論点や根拠などを明確にするとともに、文章の構成や図表との関連、表現の工夫などを考えながら書くこと。また、書いた内容を読み返して推敲すること。
  - ウ 発表の仕方や討論のルール、それらの活動に必要な表現などを学習し、実際に活用すること。
  - エ 相手の立場や考えを尊重し、互いの発言を検討して自分の考えを広げるとともに、課題の解決に向けて考えを生かし合うこと。

## 第7 英語会話

### 1 目標

英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、身近な話題について会話する能力を養う。

### 2 内容

- (1) 生徒が情報や考えなどを理解したり伝えたりすることを実践するように具体的な言語の使用場面を設定して、次のような言語活動を英語で行う。
  - ア 相手の話を聞いて理解するとともに、場面や目的に応じて適切に応答する。
  - イ 関心のあることについて相手に質問したり、相手の質問に答えたりする。
  - ウ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどを場面や目的に応じて適切に伝える。
  - エ 海外での生活に必要な基本的な表現を使って、会話する。
- (2) (1)に示す言語活動を効果的に行うために、次のような事項について指導するよう配慮するものとする。
  - ア リズムやイントネーションなどの英語の音声的な特徴、話す速度、声の大きさなどに注意しながら聞いたり話したりすること。
  - イ 繰り返しを求めたり、言い換えたりするときなどに必要となる表現を活用すること。
  - ウ ジェスチャーなどの非言語的なコミュニケーション手段の役割を理解し、場面や目的に応じて適切に用いること。

### 第3款 各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い

- 1 英語に関する各科目の2の(1)に示す言語活動を行うに当たっては、例えば、次に示すような言語の使用場面や言語の働きの中から、各科目の目標を達成するのにふさわしいものを適宜取り上げ、有機的に組み合わせて活用する。

#### [言語の使用場面の例]

- a 特有の表現がよく使われる場面：  
・買物・旅行・食事・電話での応答・手紙や電子メールのやりとりなど
- b 生徒の身近な暮らしや社会での暮らしにかかわる場面：  
・家庭での生活・学校での学習や活動 ・地域での活動 ・職場での活動など
- c 多様な手段を通じて情報などを得る場面：  
・本、新聞、雑誌などを読むこと ・テレビや映画などを観ること  
・情報通信ネットワークを活用し情報を得ることなど

#### [言語の働きの例]

- a コミュニケーションを円滑にする：  
・相づちを打つ・聞き直す・繰り返す・言い換える・話題を発展させる・話題を変えるなど
- b 気持ちを伝える：  
・褒める・謝る・感謝する・望む・驚く・心配するなど
- c 情報を伝える：  
・説明する・報告する・描写する・理由を述べる・要約する・訂正するなど
- d 考えや意図を伝える：  
・申し出る・賛成する・反対する・主張する・推論する・仮定するなど
- e 相手の行動を促す：  
・依頼する・誘う・許可する・助言する・命令する・注意を引くなど

- 2 英語に関する各科目の2の(1)に示す言語活動を行うに当たっては、中学校学習指導要領第2章第9節第2の2の(3)及び次に示す言語材料の中から、それぞれの科目の目標を達成するのにふさわしいものを適宜用いて行わせる。その際、「コミュニケーション英語Ⅰ」においては、言語活動と効果的に関連付けながら、ウに掲げるすべての事項を適切に取り扱うものとする。

#### ア 語、連語及び慣用表現

##### (7) 語

- a 「コミュニケーション英語Ⅰ」にあつては、中学校で学習した語に400語程度の新語を加えた語
- b 「コミュニケーション英語Ⅱ」にあつては、aに示す語に700語程度の新語を加えた語
- c 「コミュニケーション英語Ⅲ」にあつては、bに示す語に700語程度の新語を加えた語
- d 「コミュニケーション英語基礎」、「英語表現Ⅰ」、「英語表現Ⅱ」及び「英語会話」にあつては、生徒の学習負担を踏まえた適切な語

##### (イ) 連語及び慣用表現のうち、運用度の高いもの

##### イ 文構造のうち、運用度の高いもの

##### ウ 文法事項

- (7) 不定詞の用法 (イ) 関係代名詞の用法 (ウ) 関係副詞の用法 (エ) 助動詞の用法  
(オ) 代名詞のうち、itが名詞用法の句及び節を指すもの (カ) 動詞の時制など (キ) 仮定法  
(ク) 分詞構文

3 2に示す言語材料を用いるに当たっては、次の事項に配慮するものとする。

ア 現代の標準的な英語によること。ただし、様々な英語が国際的に広くコミュニケーションの手段として使われている実態にも配慮すること。

イ 文法については、コミュニケーションを支えるものであることを踏まえ、言語活動と効果的に関連付けて指導すること。

ウ コミュニケーションを行うために必要となる語句や文構造、文法事項などの取扱いについては、用語や用法の区別などの指導が中心とならないよう配慮し、実際に活用できるよう指導すること。

4 英語に関する各科目については、その特質にかんがみ、生徒が英語に触れる機会を充実するとともに、授業を実際のコミュニケーションの場面とするため、授業は英語で行うことを基本とする。その際、生徒の理解の程度に応じた英語を用いるよう十分配慮するものとする。

### **(参考) 高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編**

「授業は英語で行うことを基本とする」こととは、教師が授業を英語で行うとともに、生徒も授業の中でできるだけ多く英語を使用することにより、英語による言語活動を行うことを授業の中心とすることである。これは、生徒が、授業の中で、英語に触れたり英語でコミュニケーションを行ったりする機会を充実するとともに、生徒が、英語を英語のまま理解したり表現したりすることに慣れるような指導の充実を図ることを目的としている。

(省略)

英語に関する各科目を指導するに当たって、文法について説明することに偏っていた場合は、その在り方を改め、授業において、コミュニケーションを体験する言語活動を多く取り入れていく必要がある。そもそも文法は、3のイに示しているとおり、英語で行う言語活動と効果的に関連付けて指導するよう配慮することとなっている。これらのことを踏まえ、言語活動を行うことが授業の中心となっていれば、文法の説明などは日本語を交えて行うことも考えられる。

「生徒の理解の程度に応じた英語」で授業を行うためには、語句の選択、発話の速さなどについて、十分配慮することが必要である。特に、生徒の英語によるコミュニケーション能力に懸念がある場合は、教師は、生徒の理解の状況を把握するように努めながら、簡単な英語を用いてゆっくり話すこと等に十分配慮することとなる。教師の説明や指示を理解できていない生徒がいて、日本語を交えた指導を行う場合であっても、授業を英語で行うことを基本とするという本規定の趣旨を踏まえ、生徒が英語の使用に慣れるような指導の充実を図ることが重要である。

# 英語教育強化地域拠点事業

平成26年度予算額 51,419千円(新規)

## 概要

日本再興戦略等において小学校において小学校における英語教育実施学年の早期化、教科化、指導体制の在り方や中学校における英語による英語授業実施等、初等中等教育を通じた系統的な英語教育について今年度から検討することとされている。これを踏まえ、先進的な取組を支援するとともに、その成果を今後の英語教育の在り方検討に生かす。

**文部科学省**

- ・研究開発課題の設定
- ・英語教育強化地域の選定・指定
- ・研究開発に関する各種経費支援
- ・定数加配
- ・収集すべき定量的データの検討
- ・英語教育強化地域における具体的な取組や評価の在り方について検討・実施
- ・連携協議会の開催
- ・その他、英語教育強化地域に対する支援・指導・助言等

**管理機関**  
(教育委員会、学校法人、国立大学法人)

進捗管理 指導・助言

協力

**大学等**

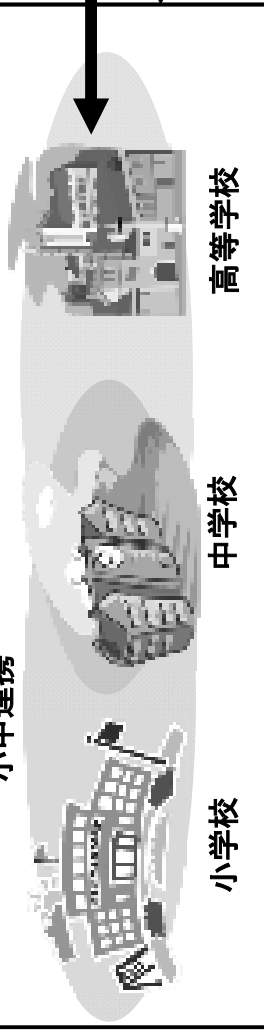
助言 援助 等

高大接続研究

## 英語教育強化地域拠点

...それぞれの研究開発課題を実践

小中連携



## 研究開発課題(例)

- (1) 小学校英語教育の教科化
- (2) 小学校英語教育の指導体制
- (3) 中・高等学校の目標・内容の高度化等

## 検証すべきデータ(例)

- 英語運用能力に関する評価研究
- 英語学習に対する関心・意欲
- 他教科等への影響等

平成26年度「英語教育強化地域拠点事業」研究校

番号	採択件名	強化地域拠点校名
1	北海道(4)	北海道寿都高等学校・寿都町立寿都中学校・寿都町立寿都小学校・寿都町立潮路小学校
2	岩手県(5)	岩手県立紫波総合高等学校・紫波町立紫波第一中学校・紫波町立日詰小学校・紫波町立赤石小学校・紫波町立古館小学校
3	秋田県(3)	秋田県立由利高等学校・由利本荘市立由利中学校・由利本荘市立由利小学校
4	群馬県(15)	群馬県立渋川女子高等学校・前橋市立第一中学校・前橋市立桃井小学校・前橋市立城南小学校・前橋市立中央小学校 群馬県立嬬恋高等学校・嬬恋村立嬬恋中学校・嬬恋村立西小学校・嬬恋村立田代小学校・嬬恋村立千俣小学校・嬬恋村立東部小学校 群馬県立沼田女子高等学校・沼田市立沼田中学校・沼田市立沼田東小学校・沼田市立沼田北小学校
5	埼玉県(9)	埼玉県立宮代高等学校・宮代町立百間中学校・宮代町立東小学校・宮代町立笠原小学校
6	千葉県(6)	埼玉県立鴻巣女子高等学校・鴻巣市立川里中学校・鴻巣市立屈巢小学校・鴻巣市立共和小学校・鴻巣市立広田小学校 千葉県立流山おおたかの森高等学校・千葉県立流山市立南流山中学校・流山市立西初石中学校・流山市立南流山小学校・流山市立緒ヶ崎小学校・流山市立西初石小学校
7	福井県(5)	福井県立勝山高等学校・勝山市立勝山中部中学校・勝山市立成器西小学校・勝山市立村岡小学校・勝山市立野向小学校
8	岐阜県(7)	岐阜県立長良高等学校・岐阜県立大垣西高等学校・岐阜市立長良中学校・大垣市立星和中学校・岐阜市立長良西小学校・大垣市立中川小学校・大垣市立小野小学校
9	兵庫県(6)	兵庫県立生野高等学校・朝来市立生野中学校・朝来市立朝来中学校・朝来市立生野小学校・朝来市立中川小学校・朝来市立山口小学校・
10	奈良県(9)	奈良県立高取国際高等学校・奈良県立桜井高等学校・奈良市立平城西中学校・奈良市立右京小学校・奈良市立神功小学校・ 御所市立葛中学校・御所市立葛小学校・明日香村立聖徳中学校・明日香村立明日香小学校
11	鳥取県(3)	鳥取県立八頭高等学校・若桜町立若桜学園中学校・若桜町立若桜学園小学校
12	島根県(4)	島根県立三刀屋高等学校・雲南市立吉田中学校・雲南市立吉田小学校・雲南市立田井小学校
13	広島県(4)	広島県立賀茂高等学校・東広島市立松賀中学校・東広島市立東西条小学校・東広島市立御園宇小学校
14	徳島県(5)	徳島県立阿波西高等学校・阿波市立阿波中学校・阿波市立久勝小学校・阿波市立伊沢小学校・阿波市立林小学校
15	高知県(6)	高知県立高知西高等学校・南国市立香南中学校・南国市立日章小学校・南国市立大湊小学校・中土佐町立久礼中学校・中土佐町立久礼小学校
16	熊本市(5)	熊本市立必由館高等学校・熊本市立鯨ヶ丘中学校・熊本市立尾ノ上小学校・熊本市立山ノ内小学校・熊本市立月出小学校
17	光華女子学園(3)	京都光華高等学校・京都光華中学校・光華小学校
18	京都教育大学(3)	国立大学法人京都教育大学附属高等学校・桃山中学校・桃山小学校

平成26年 強化地域拠点事業「事業実施計画書」まとめ

現状	小学校	中学校	高等学校
<p>・現行学習指導要領実施以前、あるいは、以降に、研究開発学校や教育特例校等として先進的に学年を下ろしたり、教科型で取り組んだりして実施している学校が多い。</p> <p>・英語を話すことに抵抗感の少ない児童、英語や英語学習を肯定的にとらえている児童が多い。</p> <p>・中学生については、児童に比べて、英語や英語学習と肯定的にとらえる割合は低い。</p> <p>・中学校で「読むこと」「書くこと」に対して、あるいは、英語学習への苦手意識を感じる生徒が少なくない場合が多い。</p> <p>・中学校では、勉強方法がわからない、単語や文法が覚えられない、話したり書いたりすることが苦手という生徒がいる。</p>	<p><b>低学年</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーション能力の素地育成</li> <li>・Hi, friends!活用</li> <li>・Hi, friends!を基に教材開発</li> <li>・指導計画の作成、それに基づいた実践・検証・改善</li> </ul> <p><b>中学年</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導計画の作成、それに基づいた実践・検証・改善</li> <li>・コミュニケーション能力の素地育成</li> <li>・「読むこと」「書くこと」を含む活動設定と、その指導方法の研究、実践・検証・改善</li> <li>・Hi, friends!活用</li> <li>・Hi, friends!を基に教材開発</li> <li>・4技能の学習到達目標の設定</li> <li>・「読むこと」「書くこと」の指導法の研究、実践・検証・改善</li> <li>・「文字の扱い方」の研究・検討</li> <li>・「発音と綴りの関係」についての指導法研究、実践・検証・改善</li> <li>・4技能の評価方法についての研究、実践・検証・改善</li> <li>・指導計画作成、それに基づいた実践・検証・改善</li> <li>・モジュール授業の学習内容・指導法についての研究、指導計画作成、それに基づいた実践・検証・改善</li> <li>・Hi, friends!活用</li> <li>・市販教材活用</li> <li>・文部科学省補助教材活用</li> <li>・独自教材開発</li> <li>・4技能統合した学習題材、教材開発</li> <li>・学力試験実施</li> <li>・パワーマンテスト(年複数回)実施</li> <li>・外部試験実施</li> </ul> <p><b>高学年</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童・指導者・保護者・地域意識調査</li> </ul>	<p>・小学校外国語教科化を踏まえた学習到達目標作成、それに基づいた実践・検証・改善</p> <p>・小学校外国語教科化を踏まえた指導計画作成、それに基づいた実践・検証・改善</p> <p>・高度化された言語活動の検討・実践・検証・改善</p> <p>・授業は英語で行うことを基本とする</p> <p>・独自教材開発</p> <p>・自治体作成学力試験実施</p> <p>・英語能力判定テスト実施</p> <p>・パワーマンテスト(年複数回)実施</p> <p>・外部試験実施</p> <p>・生徒・教員・保護者意識調査実施</p>	<p>・小中における外国語活動・外国語科を踏まえた「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標の作成</p> <p>・特に発信力を強化するための独自の教材の開発</p> <p>・4技能を総合的に育成するための「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標の作成、見直し</p> <p>・中学校での言語活動を踏まえ、英語による論理的思考力や批判的思考力を高めるための言語活動の検討及び試行</p> <p>・4技能を総合的に評価するためのパワーマンテストの実施(年複数回)</p> <p>・英語力を客観的に評価するための外部試験の導入と結果分析</p> <p>・生徒・教員・保護者に対する意識調査の実施と結果分析</p>
<p><b>全体</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童・指導者・保護者・地域意識調査</li> </ul>	<p>*下線を引いた項目は、18地域中1地域のみの取り組みである</p>		



## 3 指導と評価

# 中学校生徒指導要録（参考様式）

様式1（学籍に関する記録）

区分	学年	1	2	3
学級				
整理番号				

学 籍 の 記 録							
生 徒	ふりがな			性 別	入学・編入学等	平成 年 月 日 第1学年入学	第 学年編入学
	氏名					平成 年 月 日 第 学年転入学	
	生年月日	平成 年 月 日生		転入学	転学・退学等	(平成 年 月 日)	平成 年 月 日
	現住所						
保 護 者	ふりがな			卒業	進学先 就職先等	平成 年 月 日	
	氏名						
現住所							
入学前の経歴							
学校名 及 び 所在地 (分校名・所在地等)							
年度	平成 年度		平成 年度		平成 年度		
区分 / 学年	1		2		3		
校長氏名印							
学級担任者 氏名印							

様式2 (指導に関する記録)

生徒氏名	学校名	区分	1	2	3
		学年			
		学級			
		整理番号			

各教科の学習の記録													
I 観点別学習状況													
教科	観 点	学 年	1	2	3	教科	観 点	学 年	1	2	3		
国語	国語への関心・意欲・態度												
	話す・聞く能力												
	書く能力												
	読む能力												
	言語についての知識・理解・技能												
社会	社会的事象への関心・意欲・態度												
	社会的な思考・判断・表現												
	資料活用の技能												
	社会的事象についての知識・理解												
II 評 定													
数学	数学への関心・意欲・態度					学年	教科	国語	社会	数学	理科	音楽	美術
	数学的な見方や考え方					1							
	数学的な技能					2							
	数量や図形などについての知識・理解					3							
理科	自然事象への関心・意欲・態度					学年	教科	保健体育	技術・家庭	外国語			
	科学的な思考・表現					1							
	観察・実験の技能					2							
	自然事象についての知識・理解					3							
総合的な学習の時間の記録													
音楽	音楽への関心・意欲・態度					1							
	音楽表現の創意工夫												
	音楽表現の技能												
	鑑賞の能力												
美術	美術への関心・意欲・態度					2							
	発想や構想の能力												
	創造的な技能												
保健体育	運動や健康・安全への関心・意欲・態度					3							
	運動や健康・安全についての思考・判断												
	運動の技能												
	運動や健康・安全についての知識・理解												
技術・家庭	生活や技術への関心・意欲・態度					3							
	生活を工夫し創造する能力												
	生活の技能												
	生活や技術についての知識・理解												
外国語	コミュニケーションへの関心・意欲・態度												
	外国語表現の能力												
	外国語理解の能力												
特別活動の記録													
	言語や文化についての知識・理解					内 容	観 点	学 年	1	2	3		
						学級活動							
						生徒会活動							
						学校行事							

生徒氏名

行 動 の 記 録									
項 目	学 年	1	2	3	項 目	学 年	1	2	3
基本的な生活習慣					思いやり・協力				
健康・体力の向上					生命尊重・自然愛護				
自主・自律					勤労・奉仕				
責任感					公正・公平				
創意工夫					公共心・公德心				

**総合所見及び指導上参考となる諸事項**

第 1 学 年	
第 2 学 年	
第 3 学 年	

**出 欠 の 記 録**

区分	授業日数	出席停止・ 忌引等の日数	出席しなければ ならない日数	欠席日数	出席日数	備 考
1						
2						
3						

## 中学校生徒指導要録に記載する事項等（抜粋）

### ○ 指導に関する記録

〔各教科の学習の記録〕

観点別学習状況及び評定について記入する。

#### 1 観点別学習状況

中学校学習指導要領（平成10年文部省告示第176号）に示す各教科の目標に照らして、その実現状況を観点ごとに評価し、A、B、Cの記号により記入する。この場合、「十分満足できると判断されるもの」をA、「おおむね満足できると判断されるもの」をB、「努力を要すると判断されるもの」をCとする。

また、特に必要があれば、観点を追加して記入する。

各教科の評価の観点及びその趣旨並びにそれらを学年別、分野別に示したものは別添2-1のとおりである。各学校においては、評価が効果的に行われるようにするため、これらを参考として、評価規準の工夫・改善を図ることが望まれる。

選択教科については、生徒選択を基本とし、生徒の特性等に応じた多様な学習活動を展開するという趣旨が生かせるよう考慮して、学校が観点を設定し、記入する。

#### 2 評定

各学年における各教科の学習の状況について、必修教科については、各教科別に中学校学習指導要領に示す目標に照らして、その実現状況を、選択教科については、この教科の特性を考慮して設定された目標に照らして、その実現状況を総括的に評価し、記入する。

必修教科の評定は、5段階で表し、5段階の表示は、5、4、3、2、1とする。その表示は、中学校学習指導要領に示す目標に照らして、「十分満足できると判断されるもののうち、特に高い程度のもの」を5、「十分満足できると判断されるもの」を4、「おおむね満足できると判断されるもの」を3、「努力を要すると判断されるもの」を2、「一層努力を要すると判断されるもの」を1とする。

選択教科の評定は、3段階で表し、3段階の表示は、A、B、Cとする。その表示は、それぞれ教科の特性を考慮して設定された目標に照らして、「十分満足できると判断されるもの」をA、「おおむね満足できると判断されるもの」をB、「努力を要すると判断されるもの」をCとする。

評定に当たっては、評定は各教科の学習の状況を総括的に評価するものであり、「1観点別学習状況」において掲げられた観点は、分析的な評価を行うものとして、各教科の評定を行う場合において基本的な要素となるものであることに十分留意することが望まれる。その際、観点別学習状況の評価を、どのように評定に総括するか具体的な方法等については、各学校において工夫することが望まれる。

〔総合的な学習の時間の記録〕

総合的な学習の時間については、この時間に行った学習活動及び指導の目標や内容に基

づいて定めた評価の観点を記載した上で、それらの観点のうち、生徒の学習状況に顕著な事項がある場合などにその特徴を記入するなど、生徒にどのような力が身に付いたかを文章で記述する。

評価の観点については、中学校学習指導要領に示された総合的な学習の時間の二つのねらい（〈1〉自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てること、〈2〉学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにすること）などを踏まえ、各学校において具体的に定めた目標、内容に基づいて定める。（例えば、上記の二つのねらいを踏まえ、「課題設定の能力」「問題解決の能力」「学び方、ものの考え方」「学習への主体的、創造的な態度」「自己の生き方」などと定めたり、また、教科との関連を明確にして、「学習活動への関心・意欲・態度」「総合的な思考・判断」「学習活動にかかわる技能・表現」「知識を応用し総合する能力」などと定めたり、さらに、各学校の定める目標・内容に基づき、「コミュニケーション能力」「情報活用能力」などと定めたりすることが考えられる。）

#### 〔特別活動の記録〕

特別活動における生徒の活動について、各内容ごとにその趣旨に照らして十分満足できる状況にあると判断される場合には、○印を記入する。

各内容及びその趣旨は、別添2 - 2のとおりである。

#### 〔行動の記録〕

各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間、その他学校生活全体にわたって認められる生徒の行動について、各項目ごとにその趣旨に照らして十分満足できる状況にあると判断される場合には、○印を記入する。また、特に必要があれば、項目を追加して記入する。

各項目及びその趣旨は、別添2 - 3のとおりである。

#### 〔総合所見及び指導上参考となる諸事項〕

生徒の成長の状況を総合的にとらえるため、以下のような事項などを記入する。

1. 各教科や総合的な学習の時間の学習に関する所見
2. 特別活動に関する事実及び所見
3. 行動に関する所見
4. 進路指導に関する事項
5. 生徒の特徴・特技、学校内外における奉仕活動、表彰を受けた行為や活動、知能、学力等について標準化された検査の結果など指導上参考となる諸事項
6. 生徒の成長の状況にかかわる総合的な所見

記入に際しては、生徒の優れている点や長所、進歩の状況などを取り上げることが基本となるよう留意することが望まれる。ただし、生徒の努力を要する点などについても、その後の指導において特に配慮を要するものがあれば記入する。

また、学級・学年など集団の中での相対的な位置付けに関する情報も、必要に応じ、記入する。

なお、通級による指導を受けている生徒については、通級による指導を受ける学校名、通級による指導の授業時数、指導期間、指導の内容や結果等を記入する。

# 高等学校（全日制の課程・定時制の課程）生徒指導要録（参考様式）

様式1（学籍に関する記録）

区分	学年	1	2	3	4
ホームルーム					
整理番号					

学 籍 の 記 録							
生 徒	ふりがな			性 別	入学・編入学	平成 年 月 日	第1学年 入学
	氏 名					第 学年編入学	
	生年月日	平成 年 月 日	日生		転 入 学	平成 年 月 日	
	現住所			転学・退学	平成 年 月 日		
保 護 者	ふりがな			留 学 等	平成 年 月 日	～平成 年 月 日	
	氏 名				卒 業	平成 年 月 日	
	現住所						
入学前の経歴		平成 年	中学校卒業		進 学 先 就 職 先 等		
学 校 名 及 び 所 在 地 (分校名・所在地等)							
課程名・学科名							
年 度	平成 年度	平成 年度	平成 年度	平成 年度	平成 年度		
区分 / 学年	1	2	3	4			
校長氏名印							
ホームルーム 担任者氏名印							



(様式1裏面)

各教科・科目等の修得単位数の記録

各 学 科 に 共 通 す る 各 教 科 ・ 科 目	教科	科目	修得単位数 の計	
	国 語	国 語	国語総合	
			略	
			〃	
	地 理 歴 史	地 理 歴 史	〃	
			〃	
			〃	
	公 民	公 民	〃	
			〃	
			〃	
	数 学	数 学	〃	
			〃	
			〃	
	理 科	理 科	〃	
			〃	
			〃	
	保 体 健 育	保 体 健 育	〃	
			〃	
	芸 術	芸 術	〃	
			〃	
〃				
外 国 語	外 国 語	〃		
		〃		

主 と し て 専 門 学 科 に	教科	科目	修得単位数 の計		
	家 庭 情 報	家 庭 情 報	〃		
			〃		
			〃		
		学 校 設 定 教 科	学 校 設 定 教 科	〃	
				〃	
				〃	
	農 業 工 業 商 業 水 産 家 庭 看 護	農 業	〃		
			〃		
		工 業	〃		
			〃		
		商 業	〃		
			〃		
		水 産	〃		
			〃		
		家 庭	〃		
			〃		
	看 護	〃			
		〃			

お い て 開 設 さ れ る 各 教 科 ・ 科 目	教科	科目	修得単位数 の計			
	お い て 開 設 さ れ る 各 教 科 ・ 科 目	お い て 開 設 さ れ る 各 教 科 ・ 科 目	〃			
			〃			
			福 祉	〃		
			理 数	〃		
			体 育	〃		
			音 楽	〃		
			美 術	〃		
			英 語	〃		
			学 校 設 定 教 科	学 校 設 定 教 科	〃	
					〃	
					〃	
					〃	
					〃	
					〃	
	総合的な学習 の時間					
	留学					

様式2 (指導に関する記録)

生徒氏名	学 校 名	区分 \ 学年	1	2	3	4
		ホームルーム				
		整理番号				

各 教 科 ・ 科 目 等		各 教 科 ・ 科 目 等 の 学 習 の 記 録								備 考	
教科等	科 目 等	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	修得単位数の計					
		評 定	修得単位数	評 定	修得単位数	評 定	修得単位数		評 定	修得単位数	
各 学 科 に 共 通 す る 各 教 科 ・ 科 目	国 語 総 合										
	略										
	語 地 歴										
	理 史										
	公 民 数										
	学 理										
	科 保 体 育 芸										
	術 外 国 語 家										
	庭 情 報										
	学 定 校 教 設 科										
	主 と し て 専 門 学 科 に お い て 開 設 さ れ る 各 教 科 ・ 科 目	農 業									
		工 業									
		商 業									
		水 産									
		家 庭 看 護 情 報									
		福 祉 理 数 体 育 音 楽 美 術									
		英 語									
		学 定 校 教 設 科									
総 合 的 な 学 習 の 時 間		/	/	/	/						
小 計		/	/	/	/						
留 学		/	/	/	/						
合 計		/	/	/	/						

生徒氏名

**総合的な学習の時間の記録**

学 習 活 動	
評 価	

**特別活動の記録**

第1学年	第2学年	第3学年	第4学年

**総合所見及び指導上参考となる諸事項**

第 1 学 年	
第 2 学 年	
第 3 学 年	
第 4 学 年	

**出 欠 の 記 録**

区分 学年	授業日数	出席停止・ 忌引等の日数	留学中の 授業日数	出席しなければ ならない日数	欠席日数	出席日数	備 考
1							
2							
3							
4							

## 高等学校生徒指導要録に記載する事項等（抜粋）

### ○ 指導に関する記録

単位制による課程の場合においては、各学校における単位制による課程の特色に相応した指導要録となるよう、例えば、各教科・科目等の学習の記録を、学期ごとに区分して記述するなど工夫する。

#### 1 各教科・科目等の学習の記録

##### (1) 評定

ア 各教科・科目の評定は、各教科・科目の学習についてそれぞれ5段階で表し、5段階の表示は、5, 4, 3, 2, 1とする。その表示は、高等学校学習指導要領に示す各教科・科目の目標に基づき、学校が地域や生徒の実態に即して設定した当該教科・科目の目標や内容に照らし、その実現状況を総括的に評価して、「十分満足できると判断されるもののうち、特に高い程度のもの」を5、「十分満足できると判断されるもの」を4、「おおむね満足できると判断されるもの」を3、「努力を要すると判断されるもの」を2、「努力を要すると判断されるもののうち、特に低い程度のもの」を1とする。

イ 評定に当たっては、ペーパーテスト等による知識や技能のみの評価など一部の観点に偏した評定が行われることのないように、「関心・意欲・態度」、「思考・判断」、「技能・表現」、「知識・理解」の四つの観点による評価を十分踏まえながら評定を行っていくとともに、5段階の各段階の評定が個々の教師の主観に流れて客観性や信頼性を欠くことのないよう学校として留意する。その際、別添3に各教科の評価の観点及びその趣旨を示しているので、この観点を十分踏まえながらそれぞれの科目のねらいや特性を勘案して具体的な評価規準を設定するなど評価の在り方の工夫・改善を図ることが望まれる。

ウ 学校設定教科に関する科目は、評定及び修得単位数を記入するが、当該教科・科目の目標や内容等から数値的な評価になじまない科目については、評定は行わず、学習の状況や成果などを踏まえて、総合所見及び指導上参考となる諸事項に所見等を記述するなど、評価の在り方等について工夫することが望まれる。

エ 定時制又は通信制の課程に在学している生徒に対して、高等学校学習指導要領第1章第7款の4の規定により、大学入学資格検定合格科目を高等学校の各教科・科目の単位を修得したものとみなした場合は、修得単位数のみを記入する。また、高等学校学習指導要領第1章第7款の5の規定により、別科において修得した科目を高等学校の各教科・科目の単位を修得したものとみなした場合も、修得単位数のみを記入する。

##### (2) 修得単位数

各教科・科目等について、修得を認定した単位数を記入する。評定が1のときは、単位

の修得を認めない取扱いとする。

なお、単位制による課程の場合においては、過去に在学した高等学校において修得した教科・科目等及びその修得単位数等を記入する。

### (3) 総合的な学習の時間

総合的な学習の時間における学習活動に対して、修得を認定した単位数を記入する。

### (4) 留学

留学した生徒の外国の学校における学習の成果をもとに、校長が修得を認定した単位数を記入する。この場合、外国のカリキュラムを逐一、我が国の教科・科目と対比し、これらに置き換えて評価する必要はない。なお、外国の高等学校の発行する成績や在籍、科目履修に関する証明書又はその写しを添付する。

### (5) その他

専門教育に関する各教科・科目の履修による必履修教科・科目の代替、学校間連携や学校外の学修等についての単位認定を行った場合など、履修上の特記事項等について記入する。

## 2 総合的な学習の時間の記録

### (1) 学習活動

総合的な学習の時間において行った学習活動を記入する。

### (2) 評価

各学校が定めた総合的な学習の時間の目標、内容に基づいて各学校が設定した評価の観点を踏まえて、生徒の学習状況に顕著な事項がある場合などにその特徴を記入するなど、生徒にどのような力が身に付いたかを文章で記述する。

観点については、高等学校学習指導要領第1章第4款の2に示された総合的な学習の時間のねらいなどを踏まえ、各学校において具体的に定めた目標、内容に基づき定める。

## 3 特別活動の記録

特別活動における生徒の活動の状況について、主な事実及び所見を記入する。その際、所見については、生徒の長所を取り上げることが基本となるよう留意する。

## 4 総合所見及び指導上参考となる諸事項

生徒の成長の状況を総合的にとらえるため、以下のような事項などを記入する。

1. 各教科・科目や総合的な学習の時間の学習に関する所見
2. 行動に関する所見
3. 進路指導に関する事項
4. 取得資格

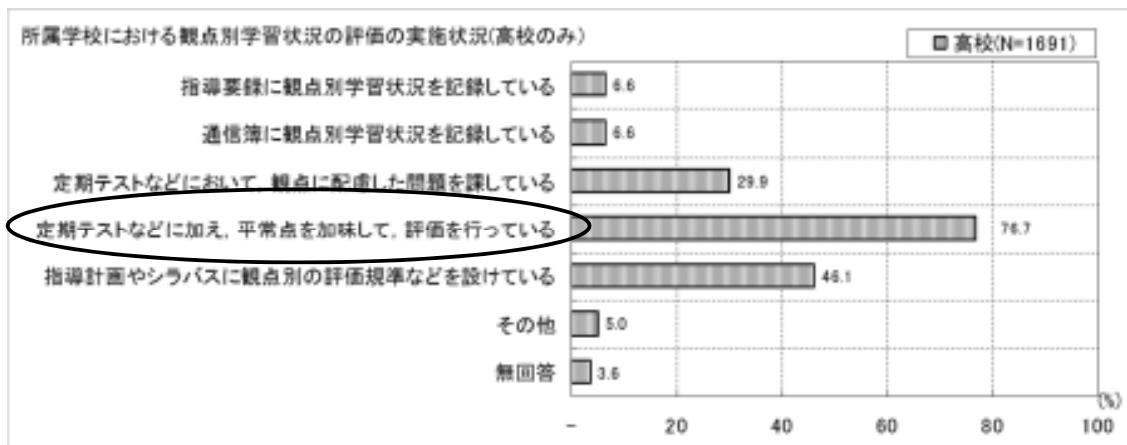
5. 生徒が就職している場合の事業所

6. 生徒の特徴・特技，部活動，学校内外におけるボランティア活動，表彰を受けた行為や活動，標準検査に関する記録など指導上参考となる諸事項

7. 生徒の成長の状況にかかわる総合的な所見

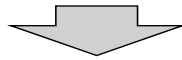
記入に際しては，生徒の優れている点や長所，進歩の状況などを取り上げることが基本となるよう留意することが望まれる。ただし，生徒の努力を要する点などについても，その後の指導において特に配慮を要するものがあれば記入する。

# 高等学校における学習評価



出典：平成21年度文部科学省委託調査 学習指導と学習評価に対する意識調査

- 観点別学習状況の評価を行い、授業改善につなげるよう努力している学校がある一方で、ペーパーテストを中心に、いわゆる平常点を加味した評価に留まっている学校も多い。
- 高等学校においても、学習指導と学習評価を一体的に行うことにより、生徒一人一人に学習内容の確実な定着を図り、授業の改善に寄与することが重要。



- 高等学校においても、**引き続き**観点別学習状況の評価を推進していくことが必要。
- 指導要録の評定についても観点別学習状況の評価を**引き続き**十分踏まえることが必要。(ただし、各学校の生徒の特性、進路等が多様であることへの配慮も必要)

# 「CAN-DOリスト」による学習到達目標の設定等の状況

## 【中学校及び中等教育学校(前期課程)】

(校数)

「CAN-DOリスト」により学習到達目標を設定している学校数・・・(a)		(a)の内、「CAN-DOリスト」を公表している学校数		(a)の内、達成状況を把握している学校数	
<b>1,681</b> (684)	<b>17.4%</b> (7.5%)	<b>358</b> (164)	<b>3.7%</b> (1.8%)	<b>1,123</b> (480)	<b>12.6%</b> (5.2%)

## 【高等学校及び中等教育学校(後期課程)(普通科等に限る)】

(学科数)

「CAN-DOリスト」により学習到達目標を設定している学科数・・・(a)		(a)の内、「CAN-DOリスト」を公表している学科数		(a)の内、達成状況を把握している学科数	
<b>1,960</b> (209)	<b>33.5%</b> (3.7%)	<b>498</b> (76)	<b>8.5%</b> (1.4%)	<b>905</b> (155)	<b>15.5%</b> (2.8%)

注1)「CAN-DOリスト」とは、英語を使って実際にどのようなことができるようになるのか、その能力を記述したものを指す。

注2)「公表」とは、「学校だより」や「英語科通信」等で紹介したり、学校のホームページに掲載したりなどすることで、生徒、保護者及び地域住民に広く伝えている状態のことを指す。

注3)「達成状況の把握」とは、テスト等の実施により、学習到達目標の達成状況を客観的に把握している状態を指す。

注4) ( )内の数値は、平成23年度「『国際共通語としての英語力向上のための5つの提言と具体的施策』に係る状況調査」の結果である。

出典:「英語教育実施状況調査」(H25年)

# パフォーマンステストの状況 (1)

## 【中学校及び中等教育学校(前期課程)】

(校数)

	実施する		実施しない	
(ア) 第1学年	<b>8,948</b>	<b>93.0%</b>	<b>669</b>	<b>7.0%</b>
(イ) 第2学年	<b>9,031</b>	<b>93.7%</b>	<b>607</b>	<b>6.3%</b>
(ウ) 第3学年	<b>8,912</b>	<b>92.3%</b>	<b>741</b>	<b>7.7%</b>

(実施する(実施した)場合の実施回数)

(回数)

		(ア)	(イ)	(ウ)
スピーキングテスト	スピーチ	12,582	11,774	11,395
	インタビュー(面接)	10,077	10,243	10,220
	プレゼンテーション	3,781	4,609	4,823
	ディスカッション	292	672	1,017
	ディベート	55	286	781
スピーキングテスト総合計		26,787	27,584	28,236
ライティングテスト(エッセイ等)		18,522	21,061	23,596
その他(※下記に詳細記述)		646	723	740

注1)「各校の実施回数」とは、当該学年の生徒全員を対象としたテストの回数を指す。

注2)音読テストは、本調査においては、「読むこと」の技能を評価するものとし、スピーキングテストに含めない。

注3)「ライティングテスト」は定期テストの出題も含む。ただし、学習指導要領に示す言語活動(「聞いたり読んだりしたことについてメモをとったり、感想、賛否やその理由を書いたりなどすること。」「身近な場面における出来事や体験したことなどについて、自分の考えや気持ちなどを書くこと。」「自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を書くこと。)」に沿って各学年の学習段階を考慮した評価とし、語彙、語法、文法知識のみを問うような問題は含めない。

出典:「英語教育実施状況調査」(H25年)



## パフォーマンステストの状況 (2)

【高等学校及び中等教育学校(後期課程)(普通科等に限る)】

(学科数)

	実施する		実施しない	
(ア)「コミュニケーション英語基礎」	137	39.1%	213	60.9%
(イ)「コミュニケーション英語Ⅰ」	1,671	54.0%	1,423	46.0%
(ウ)「英語表現Ⅰ」	1,167	64.9%	630	35.1%

(実施する(実施した)場合の実施回数)

(回数)

		(ア)	(イ)	(ウ)
スピーキングテスト	スピーチ	204	1,232	742
	インタビュー(面接)	206	1,380	654
	プレゼンテーション	134	968	642
	ディスカッション	11	196	48
	ディベート	4	77	56
スピーキングテスト総合計		559	3,853	2,142
ライティングテスト(エッセイ等)		226	2,101	2,261
その他(※下記に詳細記述)		33	259	101

注1)「各校の実施回数」とは、当該学科・学年の生徒全員を対象としたテストの回数を指す。

注2)音読テストは、本調査においては、「読むこと」の技能を評価するものとし、スピーキングテストに含めない。

注3)ライティングテストは定期テストの出題も含む。ただし、学習指導要領に示す言語活動(例:「コミュニケーション英語Ⅰ」であれば、「聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、簡潔に書く」)などに沿った評価とし、語彙、語法、文法知識のみを問うような問題は含めない。

出典:「英語教育実施状況調査」(H25年)

## 英語担当教員の英語の使用状況(1)

【中学校及び中等教育学校(前期課程)】

(人数)

該当学年	1年	2年	3年
学年を担当する英語担当教員総数	16,027	15,756	15,933

(人数)

教員の英語使用状況	該当する英語担当教員数					
	1年		2年		3年	
発話をおおむね英語で行っている (75%程度以上～)	1,152	7.2%	950	6.0%	1,002	6.3%
発話の半分以上を英語で行っている (50%程度以上～75%程度未満)	5,981	37.3%	5,809	36.9%	5,568	34.9%
発話の半分未満を英語で行っている (～50%程度未満)	8,894	55.5%	8,997	57.1%	9,363	58.8%

出典:「英語教育実施状況調査」(H25年)

## 英語担当教員の英語の使用状況(2)

### 【高等学校及び中等教育学校(後期課程)】

(コミュニケーション英語 I)

学科を担当する英語担当教員総数	10,096	人
-----------------	--------	---

(人数)

	該当する英語担当教員数	
	人数	割合
発話をおおむね英語で行っている (75%程度以上～)	1,528	15.1%
発話の半分以上を英語で行っている (50%程度以上～75%程度未満)	3,833	38.0%
発話の半分未満を英語で行っている (～50%程度未満)	4,735	46.9%

(英語表現 I)

学科を担当する英語担当教員総数	6,114	人
-----------------	-------	---

(人数)

	該当する英語担当教員数	
	人数	割合
発話をおおむね英語で行っている (75%程度以上～)	826	13.5%
発話の半分以上を英語で行っている (50%程度以上～75%程度未満)	2,035	33.3%
発話の半分未満を英語で行っている (～50%程度未満)	3,253	53.2%

出典:「英語教育実施状況調査」(H25年)

## 授業における、生徒の英語による言語活動時間 (1)

### 【中学校及び中等教育学校(前期課程)】

(人数)

該当学年	1年	2年	3年
学年を担当する英語担当教員総数	16,027	15,756	15,933

(人数)

授業に占める言語活動の時間の割合	該当する英語担当教員数					
	1年		2年		3年	
授業中、おおむね言語活動を行っている (75%程度以上～)	2,042	12.7%	1,634	10.4%	1,580	9.9%
半分以上の時間、言語活動を行っている (50%程度以上～75%程度未満)	6,373	39.8%	5,773	36.6%	5,295	33.2%
半分未満の時間、言語活動を行っている (25%程度以上～50%程度未満)	6,694	41.8%	7,159	45.4%	7,514	47.2%
あまり言語活動を行っていない (～25%程度未満)	918	5.7%	1,190	7.6%	1,544	9.7%

注1) ペア・ワークやグループ・ワーク等とは、生徒間でのやり取りを基本とする。ただし、教員が英語を用いて、生徒とやり取りを行う時間等も含む。

注2) 言語活動とは、現行の学習指導要領に規定されている言語活動のこと。

例:「聞いたり読んだりしたことなどについて、問答したり意見を述べ合ったりなどすること。」など。

注3) 英語担当教員とは、教員免許「外国語(英語)」を所有し、かつ調査時点で英語の授業を担当している管理職、教諭、助教諭及び常勤講師を指す。非常勤講師は除く。

注4) 該当学年ごとに1単位時間で生徒が英語で言語活動をしているおおよその割合に該当学年を担当する教員数を入れる。

出典:「英語教育実施状況調査」(H25年)

# 授業における、生徒の英語による言語活動時間（2）

## 【高等学校及び中等教育学校（後期課程）】

学科を担当する英語担当教員総数	10,096	人
-----------------	--------	---

授業に占める言語活動の時間の割合	該当する英語担当教員数	
授業中、おおむね言語活動を行っている (75%程度以上～)	1,131	11.2%
半分以上の時間、言語活動を行っている (50%程度以上～75%程度未満)	3,047	30.2%
半分未満の時間、言語活動を行っている (25%程度以上～50%程度未満)	4,027	39.9%
あまり言語活動を行っていない (～25%程度未満)	1,891	18.7%

- 注1) ペア・ワークやグループ・ワーク等とは、生徒間でのやり取りを基本とする。ただし、教員が英語を用いて、生徒とやり取りを行う時間等も含む。  
 注2) 言語活動とは、現行の学習指導要領に規定されている言語活動のこと。  
 例：「聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりする。」など。  
 注3) 英語担当教員とは、教員免許「外国語（英語）」を所有し、かつ調査時点で英語の授業を担当している管理職、教諭、助教諭及び非常勤講師を指す。非常勤講師は除く。  
 注4) 該当学科ごとに、1単位時間で生徒が英語で言語活動している時間のおおよその割合に該当学科を担当する教員数を入れる。

出典：「英語教育実施状況調査」(H25年)

## 生徒の英語力の状況

### 【中学校及び中等教育学校（前期課程）】

( )内は前年度数値

	中学校第3学年に所属している生徒数…(a)	(a)の内、英検を受験したことがある生徒数…(b)	(b)の内、英検3級以上を取得している生徒数…(c)	(a)の内、英検3級以上相当の英語力を有すると思われる生徒数[(c)以外]…(d)	(c)と(d)の計
生徒数及び割合	1,093,466 人 (1,086,444人)	346,949 人 (340,582人)	180,637 人 (175,949人)	171,414 人 (163,400人)	352,051 人 (339,349人)
	((a)に占める割合)→	31.7% (31.3%)	16.5% (16.2%)	15.7% (15.0%)	32.2% (31.2%)

注)「英検3級以上相当の英語力を有すると思われる生徒数」とは、英検3級以上は取得していないが、相当の英語力を有していると英語担当教員が判断する生徒の人数を指す。

### 【高等学校及び中等教育学校（後期課程）】

( )内は前年度数値

	高等学校第3学年に所属している生徒数…(a)	(a)の内、英検を受験したことがある生徒数…(b)	(b)の内、英検準2級以上を取得している生徒数…(c)	(a)の内、英検準2級以上相当の英語力を有すると思われる生徒数[(c)以外]…(d)	(c)と(d)の計
普通科等	699,313 人 (728,795人)	228,184 人 (248,663人)	72,922 人 (73,243人)	139,155 人 (148,579人)	212,077 人 (221,822人)
	((a)に占める割合)→	32.6% (34.1%)	10.4% (10.0%)	19.9% (20.4%)	30.3% (30.4%)
英語教育を主とする学科	7,699 人 (8,056人)	6,493 人 (6,282人)	5,021 人 (4,733人)	2,099 人 (1,872人)	7,120 人 (6,605人)
	((a)に占める割合)→	84.3% (78.0%)	65.2% (58.8%)	27.3% (23.2%)	92.5% (82.0%)
合計	707,012 人 (736,851人)	234,677 人 (254,945人)	77,943 人 (77,976人)	141,254 人 (150,451人)	219,197 人 (228,427人)
	((a)に占める割合)→	33.2% (34.6%)	11.0% (10.6%)	20.0% (20.4%)	31.0% (31.0%)

注)「英検準2級以上相当の英語力を有すると思われる生徒数」とは、英検準2級以上は取得していないが、相当の英語力を有していると英語担当教員が判断する生徒の人数を指す。

出典：「英語教育実施状況調査」(H25年)